



ユニオンニュース・掲示回覧用

私たちの地域合同〔第30回〕

(佐野安下請け労働者支部の巻 最終回)

残念ながら、佐野安下請け支部は、短命でした。しかし、この闘いの成果は労働組合法における使用者概念の拡大です。下請け企業で働く労働者で作った組合がその企業をまとめる協同組合への団体交渉権を勝ち取ったということです。これは大きな成果です。これはのちの生コン連帯らの運動にも影響を与えています。

次に、下請け労働者と本工労働者の団結です。結成から暴力ガードマンとの死闘も共に闘いました。決してあきらめない強固な団結は、一旦脱退させられた労働者の再加入も勝ち取っています。

最後に多くの活動家の排出です。短命で終わった大きな要因は造船不況による大量の合理化です。この流れはなかなか止められませんでした。しかし、佐野安造船を離れても、労働組合の活動家として多くが後の労働運動を担っています。先に紹介した田中さんも総評-連合のオルグとして活躍し、当組合のMJB分会にも多くが加盟。

地域ユニオンの結成に奔走した人もいます。心に刻むべき闘いでした。

維新政治にストップを! 参議員選挙の投票で意志表示を!

結局お金がほしい政党

左の表は維新のお金をめぐる動きを表しています。

政党交付金は残金が発生した場合、解散した場合には国庫に返却しなければなりません。

7年前に大阪都構想にやぶれた

橋下氏はローカルな「維新の党」は全国政党「おおさか維新の会」に合流することを決め、162人を除籍しました。

こうなると162人の党支部は解散することになり、政党助成金を返さなくてははいけません。橋下氏は「残ったお金は国庫に返納する」と豪語しましたが、突然、「なんば維新」なる政党が作られ、維新の党やその支部からの寄付の受け皿になり、そこを経由して「おおさか維新の会」にお金が流れました。その額合計3億4千万です。迂回資金のやり方ってずるいお金持ちの考えることですよ。

また、政党交付金は余ったら返す、が原則です。しかし、「基金」をつくることでこの返納が免除されます。自民党はこの基金に多額のお金をため込んでいますが、維新も交付金の83%を基金としてため込んでいます。

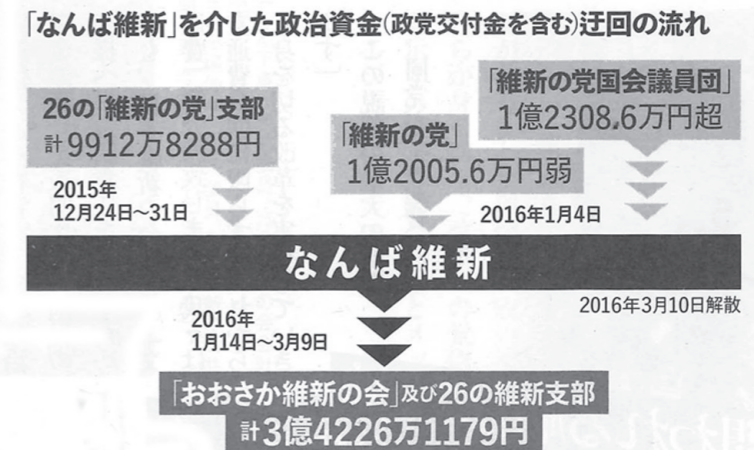
「身を切る改革」の中身はこんなことです。

領収書の必要のない経費も必要?

政治家の使途不明金はよく聞く話です。維新も例外ではありません。政党活動費として維新の馬場幹事長に年間4000万ほど払われています。これが政策活動費で使途は明らかになっていません。

「身を切る」ではなく「身を肥やす」とキャッチを変えるべきでは?

年	政党交付金	本部・支部の基金合計 (翌年への繰越額)	基金の占める割合
2016年	7億0805.5万円	4267.9万円	6.0%
2017年	10億5966.5万円	5836.6万円	5.5%
2018年	13億0936.3万円	3億3968.8万円	25.9%
2019年	15億6451.4万円	7億3228.9万円	46.8%
2020年	18億5310.6万円	15億3756.7万円	83.0%



それでもカジノは必要か?

維新はIR誘致が大阪に大きな経済効果をもたらす、との一点張りで計画を強行しています。

そのために土地改良費790億円を市が負担します。カジノに税金を使わないって言ったのは松井さんです!

運営業者も1社しか手を上げず、ほぼ随意契約です。IR開発-カジノに反対する住民は20万人を超える署名を集め、この事業について

住民投票で決めるべきだとし、大阪府に提出しました。

しかし、吉村知事は「必要ない」との考えを表明しました。これが維新です。



大阪選挙区
参議院推薦候補
石田 敏高
立憲民主党

一泊研修会 テーマ未定

8月27日(土) 午後18:30~懇親会

8月28日(日) 学習会9:30~

淡路島 津名ハイツ

(神戸から送迎バスあり)